

梅雨が明けて、暑い日が続いています。みなさん、いかがお過ごしですか？ 暑い日にマスクを着けて外を歩くと息苦しいですね。人との距離が十分に保てる場所では、マスクをはずして水分補給をするなど、体調管理には充分気をつけてください。

今日は原爆記念日ですね。広島出身の私にとっては、やはり特別な日です。例年、平和祈念式はとても暑いなかで行われ、市中のあちこちに咲く夾竹桃の花がセットで思い出されます。



さて、先週、学長・教務部長からのメッセージが大学ウェブサイトに掲載され、学部長からのメッセージが PorTa II で配信されました。よく読んでいただけたでしょうか？ 秋学期は月曜日から金曜日まではオンライン授業、土曜日の午前中は（必修・選択必修以外の）実技系科目の対面授業となります。土曜日の午後には補講等が対面で行われることもあります。来られない方には配慮いたします。つまり、獨協大学では、まず第一に何らかの事情で大学キャンパスに来られない人でも支障がないように考えたと言えると思います。これまでにドイツ語学科のみなさんからいただいた声のなかには、「対面授業を受けたい」「キャンパスで友だちと過ごしたい」といった意見のほかに、家族に持病をもつ人や高齢者がいて、仮に秋学期に対面授業になったとしても通学しづらい（そして、そういった事情はクラス等では言い出しにくい）という意見もありました。ですので、対面授業を受けたい、友だちをつくりたいと思っていた人にとっては秋学期も遠隔授業になってしまうのは残念かも知れませんが、ご理解をいただければと思います。

8月3日に、緊急事態宣言解除後はじめてコンサートに行きました。会場でたまたま会った獨協大学の職員さんは、もう10回目くらいとおっしゃっていたので、私は音楽教員なのに動きが遅いですね…。管弦楽と合唱・独唱のコンサートで、おそらく歌う際の飛沫に配慮して、舞台の外縁のひな壇に social distance を保って器楽奏者が並び、内側が歌手の方々という初めて見る配置でしたが、非常に感動的な演奏でした。（普通はオーケストラが手前、合唱が後ろという配置です。）歌手の間には透明プラスチックの仕切りが置かれ、プログラム冊子等を手渡すことでの感染を防ぐために、舞台奥でドイツ語歌詞の日本語訳が字幕で出されました。（歌っているところと字幕の出るタイミングが合っていたので、誰かドイツ語の分かる人が手動で操作していたのだと思います。演奏作品はバッハの《マタイ受難曲》でした。）With corona の新しい演奏会のあり方を示し、リードしていくような意気込みが感じられました。コロナ感染症には特效薬ができないかも知れないという WHO 事務局長の意見も出されました（<https://news.livedoor.com/article/detail/18677750/>）。このコンサートに行き、私も自分の今いる場所で、with corona (Corona im Alltag) を前提としたよりよい提案ができるようになりたいと思いました。

昨日の「ドイツ語学科しゃべり場」に参加して下さったみなさん、貴重なご意見をどうもありがとうございました。来学期に向けて、改善できるところはしていきたいと思っています。今後も「ドイツ語学科しゃべり場」を月1回程度開催したいと考えております。今回参加しなかった方もぜひご参加ください。

どうか感染症と熱中症に充分気をつけて、学期末までの学習を乗り切ってくださいね。

8月6日

ドイツ語学科長
木村佐千子